



# かがやき自立活動通信

平成28年 4月12日 NO. 33

## 節目をチャンスにしましょう

入学・進級おめでとうございます！新しい「節目」を迎え、子どもたちは期待と不安に胸を膨らませていることと思います。ご家庭と学校が連携しながら、一步一步子どもたちと着実に歩いていけるよう、頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

さて、この「節目」ですが、新たに物事に挑戦できるいい機会となります。日常の中で子どもが無理なくできることを1つ決めて1年取り組んでみましょう。きっと力になっていくと思います。まずは、お手伝いとして何か1つ決めて取り組んでみてはいかがでしょうか。

## お手伝いをする意義

お手伝いを通して、「人の役に立つ経験」、「責任を果たす経験」を積む事ができます。はじめはその事を実感するのは難しい場合もあるかもしれませんが、しかし、やったこと、できたことを褒めていくことで、子どもたちに自信をつけていくことができます。自分を肯定的に受け止められるようになります。また、人とのかわりの中で、「人の役に立つ経験」を深めることで、子どもの自尊心や、自己概念を育てることが期待できます。



## 取り組みやすいお手伝い

「これはどうかな？」と思うお手伝いを挙げてみました。参考にしてください。しかし、あくまでご家庭でお子さんができそうな物からはじめる事が大切です。決まったお手伝いがあれば、それを続けながら少しずつ内容を変えて発展してみましょう。着実にできたら違う活動に変えてみます。また、なかなか力につながらないときは、補助を入れながら難易度を低くしたり、内容をもう少し易しいものに変えてみましょう。1つの事ができるようになったら、それを少しだけ難しくする、または別の課題に変えてみます。この時大切なことは、必ず最後には達成して終われるようにすることです。達成感を感じて終われる事が、次への意欲につながります。

「継続は力なり」という言葉がありますが、日々続けている事が様々な力につながっていきます。

### 【お手伝いの一例】

- ・食器の片付け
- ・洗濯物をたたむ（自分の物から家族の物へと広げる）
- ・お風呂洗い
- ・食器を拭く
- ・ごみを捨てる
- ・ペットボトルを水ですすぐ
- ・買い物かごを持つ
- ・新聞を取りに行く
- ・植木の水やり
- ・上履きを洗う

## 【お手伝いをするときに注意したいこと】

### ○子どもの今ある力で出来ることに取り組む

食器を片付ける、洗濯物干しから衣類を取る、お風呂を洗う等、子どもが十分に達成できる内容にしましょう。その活動をやって自信を持ち、続けられそうなものを考えます。

### ○できたら少しずつ発展する

上記の例でいくと、盛り付けた食器をテーブルに運ぶ、洗濯物を少しだけたたんでみる、栓をしてお風呂にお湯をはるなど、「できるかな？」と思うところでやってみます。教えるときは、言葉だけでは伝わらない場合があります。まずは、1つずつお手本を見せて一緒に確認しながら伝えていきましょう。



### ○日常の中で毎日必要なこと（活動）を取り上げる

毎日行うことならば、継続して取り組みやすくなります。継続してできるということは、それだけ力をつけるチャンスがあることになります。

### ○必ず賞賛する機会をつくる

賞賛の仕方は様々ですが、言葉かけして褒めることはとても大切です。もし、100%できなくても、その過程を褒めていきましょう。食べ物を使って賞賛することは、それが強くなってしまふ（食べ物がないとやらない）のであまりお勧めできません。

### ○できなくても、少し補助を入れてできた体験を積む

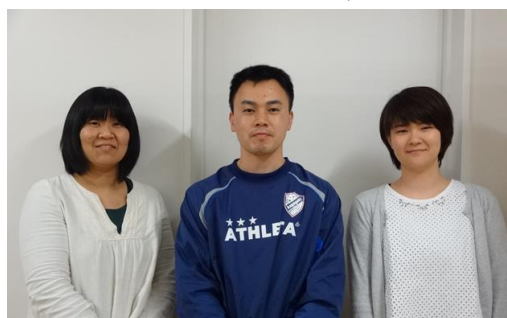
行った活動や行動ができないまま終わったら、失敗した経験しか残りません。次への意欲ややる気を育てるには、成功体験や達成感が感じられる学習場面が必要です。自分のやった事が肯定的に受け止めてもらえる環境づくりも大切です。

☆無理せず、毎日できるところからコツコツ取り組んでみましょう。子どもも大人も続けられる事が大切です。始めから大きな課題を掲げず、「できるところ」「できそうなところ」から取り組んでみましょう。



自立活動専任の紹介です。今年度も3名の教員でそれぞれ授業に携わっていきます。昨年度から2名入れ替わり、新たな顔ぶれで進めていきます。どうぞよろしくお願ひします。

### 自立ノート



(左から野中文奈、荻田慎嗣、岩見早希子)